

第5学年国語科学習指導案

令和元年5月15日（水）6校時

5年1組 児童数24名

指導者 池谷 康史

1 単元名 「物語の山場をとらえよう～山場交流会～」

教材名 「世界でいちばんやかましい音」（東京書籍5年）

新学習指導要領における【身に付けさせたい資質・能力】	【設定した言語活動とその設定理由】
【知・技】 (1) ク 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。	【言語活動】 お気に入りの物語の最も大きく変わったこととその理由について自分の考えをまとめ交流する。
【思・判・表】 C (1) エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 B (1) ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに事実と感想、意見を区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。	
【学びに向かう力】 物語を読むことに興味を持ち、物語の最も大きく変わったことについて自分の考えを相手に伝えようとする。	
	【理由】 お気に入りの物語は、これまでに学習した物語文「かさこじぞう」「サーカスのライオン」「走れ」「ごんぎつね」の中から選ぶようにする。学級の誰もが知っている物語を活用することで、山場について友達との共通点や相違点を比較しやすい。また、以前とは違った物語の読み方ができると考える。

2 単元について

単 元 観
○現行学習指導要領の指導事項は、C読むこと「エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめること。」とB書くこと「事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。」である。 ○本教材は、展開が分かりやすく内容もとらえやすい物語である。一読して、「山場」がどこにあるのかが分かりやすく、そこでの中心となる人物の変容をとらえることも容易であると考えられる。「始まるの場面」と「終わりの場面」を比較することにより、その山場で起きる変化が、その後の出来事や他の人物などにも影響していることが分かる。物語全体の構成や、物語全体を通して大きな変容を考えるために適した教材であるといえる。 ○本単元は、物語の構成や山場で起きた変化をとらえやすい教材である。そこで、物語の山場で起きる変化について感想を伝え合う言語活動を設定することができる。伝え合うために、各自が山場を強く意識して読むことにより、さまざまな人物が登場する物語を一つのものでとらえ、物語全体の構成をつかむことができる。その結果、各場面の意味や必然性、仕掛けや仕組みに気付くことができると考えられる。
児 童 観
○4年生5月「走れ」では、中心人物の気持ちが大きく変化する部分に着目して読み、どのように変化したのか、なぜ変化したのかを考える学習をし、10月「ごんぎつね」では、登場人物の気持ちの変化や性格、情景、中心人物と他の人物との関わりについて考える学習を経験している。しかし、言葉や文に着目して、登場人物の相互の関係を捉えることに課題がある児童もいる。 ○昨年度の高知県学力定着状況調査の「読む領域」では「登場人物の行動を基にして、場面の移り変わりを捉える」+3.5で目標値を上回っていたが、「叙述を基にして、登場人物の様子を捉える」-4.9であった。また、「書く領域」では、「目的に応じて書こうとすることの中心を明確にして書く」-25.4であった。この結果から、叙述に即して読み取る力や目的に応じて書く力を身に付けていく必要があると考えられる。
指 導 観
○第一次では、教科書P47・49の挿絵と題名を見て物語を読むことに興味を持ち、「物語の構成や山場で起きた変化をとらえる力」を付けたい力として学習のねらいをつかみ、単元のゴールで既習の物語文の山場について交流会をするという目的意識を持たせる。付けたい力を身に付けるためにはどんな学習が必要なのかを自分達で考えて学習計画を立て、主体的な学びを目指していく足掛かりとする。 ○第二次では、まず、「始まるの場面」「山場に向かって進んでいく場面」「山場」「終わりの場面」の物語の基本的な構成を知る。次に、「始まるの場面」と「終わりの場面」を比較し、物語の全体像や中心人物の変容について想像させ、立て札が変わった理由を考える。それから、「山場に向かって進んでいく場面」と「山場」に着目して、物語の構成や表現の工夫などこの物語をおもしろくしている秘密を探る。そして、物語のクライマックスをとらえるために、A「そして、その何億という人の耳に聞こえたのは、全くのちんもくでした。」B「王子様がうれしそうに手をたたいているのです。」という二文のうち、どちらがクライマックスの一文か考え、中心人物の変容とその因果関係をとらえていく。 ○第三次では、既習の物語文「かさこじぞう」「サーカスのライオン」「走れ」「ごんぎつね」の中から自分のお気に入りの物語を選び、その選んだ物語の山場をとらえ、物語全体を通して最も大きく変わったこととその理由について、自分の考えをまとめ交流する。

3 単元の目標

- 物語を読むことに興味を持ち、山場で起きた変化について考えようとしている。 【関心・意欲・態度】
- ◎場面と場面とのつながりをとらえ、物語の構成を理解し、山場で最も大きく変わったことは何かを考えながら読むことができる。 【C読むこと エ】
- 物語全体を通して最も大きく変わったこととその理由について、自分の考えを書くことができる。 【B書くこと ウ】
- 文章の中の語句と語句との関係を理解することができる。 【言イ(オ)】

4 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む	書く	言語についての 知識・理解・技能
① 物語を読むことに興味を持ち、山場で起きた変化について意欲的に文章を読もうとしている。	① 場面と場面のつながりをとらえ、物語の構成を理解し、山場で最も大きく変わったことは何かを考えながら読んでいる。	① 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしている。	① 表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解している。

5 指導と評価の計画（全7時間）

		めあて	評価規準【評価方法】	学び	評価
第一次 1	1	・これからどんな力をつけていけばいいのだろう。これまでの学習を基に、学習計画を立てよう。	・物語を読むことに関心を持ち、これからの学習に意欲的に取り組もうとしている。 (ノート・観察)	主	関①
	2	・時を表す言葉や場所に着目し、この物語を4つの場面に分けよう。	・物語を場面に分け、「山場」を意識しながら、物語の構成をとらえている。(ノート・観察)	対	読①
第二次 4	3 (本時)	・立て札に着目し、なぜ立て札に書かれていることが変わったのか、そのきっかけを考えよう。	・物語の叙述を基に、物語の中で変化しているものについて考えながら読んでいる。 (ノート・観察)	対	読①
	4	・「山場に向かって進んでいく場面」と「山場」に着目し、この物語をおもしろさのひみつを探ろう。	・物語の構成のおもしろさや表現の工夫に気付いている。 (ノート・観察)	対 深	読① 言①
	5	・この物語のクライマックスの一文はどちらだろう。その理由を考えよう。	・物語の叙述を基に、山場で起きた変化とその理由について考えながら読んでいる。 (ノート・観察)	対 深	読①
第三次 2	6	・お気に入りの物語の最も大きく変わったこととその理由について自分の考えをまとめよう。	・お気に入りの物語の最も大きく変わったこととその理由について、自分の考えを書いている。 (ワークシート・ノート)	深	書①
	7	・山場交流会をしよう。	・お気に入りの物語の最も大きく変わったこととその理由について、考えを伝え合っている。 (ワークシート・観察)	主 対	関① 読①

付けたい力に向けた言語活動

お気に入りの物語の最も大きく変わったこととその理由について自分の考えをまとめ交流する。

児童の実態

叙述に即して読み取る力や目的に応じて書く力ついて十分ではない。

本単元で児童に付けたい力

- ◎物語の構成や山場で起きた変化をとらえる力
- 目的に応じて文章をまとめる力

学習の流れと評価計画(全7時間)

主体的な学び

- 学習課題を確かめ、学習の計画を立てる。 1
- ・既習で得た力を確認し、物語を読むことに興味を持ち、山場交流会をするために必要な力を確かめる。 【関①】

対話的な学び

深い学び

- 物語の構成を知り、山場に注目して、物語全体を通して最も大きく変わったことについて考えながら読む。 4
- ・物語の構成を理解し、「山場」を見つける。 【読①】
 - 本時** ・物語の中で変化したものについて考えながら読む。 【読①】
 - ・物語をおもしろくしている工夫について考えながら読む。 【読①】【言①】
 - ・物語のクライマックスについて考えながら読む。 【読①】

対話的な学び

深い学び

- お気に入りの物語の山場をとらえ、山場交流会をする。
- ・お気に入りの物語の最も大きく変わったこととその理由について自分の考えをまとめる。 【書①】
 - ・山場交流会をする。 【関①】【読①】

第一次 1 (導入)

第二次 4 (展開)

第三次 2 (発展)

7 本時における研究テーマとのかかわり

本時の目標

叙述を基に、人物像や物語の全体像を想像しながら読むことができる。

本時の評価規準

☆物語の叙述を基に、物語の中で変化しているものについて考えながら読んでいる。

支援

※どの文章（言葉）とどの文章（言葉）が対比しているのか、視覚で確認するために拡大した物語の全文を提示する。

軸となる言語活動

○立て札に着目し、「始まりの場面」と「終わりの場面」では、なぜ立て札に書かれていることが変わったのか、そのきっかけは何か話し合う。

思考・判断

- ・立て札に着目し、「始まりの場面」と「終わりの場面」の町の様子の違いについて考える。
- ・なぜ、町の様子が変わったのか、そのきっかけを考える。

表現

- ・叙述を基に、考えたことを伝え合う。

対話的な学びを実現するための手立て

- ・なぜ、立て札に書かれていることが変わったのか、そのきっかけを叙述を基に話し合わせる。
- ・教科書に線を引いたり、チェックを入れたりして、対比する文章や言葉に着目させて話し合わせる。

第二次 2時間目 (3/7)

(1) 目標

叙述を基に、人物像や物語の全体像を想像しながら読むことができる。

(2) 展開

	主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点（○）支援（※） 評価（☆）、主な発問 発
見 通 す	1. 前時を振り返り、物語の基本的な構成について学習したことを想起する。 2. めあてを確認する。	○単元のゴールを確認し、予習を基に本時の学習を考えさせる。 ※立て札を提示する。
	立て札に着目し、なぜ立て札に書かれていることが変わったのか、そのきっかけを考えよう。	
思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 す る	3. 「始まりの場面」と「終わりの場面」を比べ、何が違ったのか考える。 【個人】 - 人々の話し方、アヒルの鳴き声、家の戸、おまわりさんの笛の音が変わった。 4. 立て札に書かれていることが変わったきっかけについて話し合う。 【個人】→【グループ】→【全体】 - 王子様の誕生日があったから。 - 王子様の気持ちが変わったから。 - やかましい音が好きだった王子様が静けさを好きになったから。 - ある一人のおくさんが世界でいちばんやかましい音を聞こうと考えたから。	発 立て札以外に変わったものはありますか。 ○町の様子が変わったことをおさえる。 ※提示した物語全文を使って、何がどのように変わったのか対比する文章や言葉を確認する。 発 立て札が変わったきっかけは何でしょう。「山場に向かって進んでいく場面」と「山場」に着目して考えよう。 ○登場人物や出来事に着目させる。 ☆物語の叙述を基に、物語の中で変化しているものについて考えながら読んでいる。【読①】 (ノート・観察)
ま と め 振 り 返 る	今日の学習を振り返る。 家庭学習 この物語の中に、どんな表現の工夫があるのか見つけ、教科書に線を引いてくる。	○今日学習したことをお気に入りの物語を読む時にどう生かしていきたいのかを振り返りに書かせる。

(3) 準備物 教材文、立て札、登場人物の挿絵